

事業仕分け

皆さんに「次早よ書け」と叱られながら、沈黙を保ちましたが、この3月でまる5年になります。自ら、もう5年か、と感慨深いものがあります。初めは、3年もつかどうか、いまでも時々いやになることがあります、ここまできたら、まあ毒皿みたいなもので頭と身体が続くかぎり継続しようと思っています。

さて「待望久しかった（いう人がなぜか大勢いるのだが）」民主党政権が誕生し、すでにカネの問題が発生しています。政権が代わったことで、よかったことはいわゆる族議員と呼ばれる連中と官僚の癒着がなくなりつつあること。野にいるときはやや正論めいたことを言っても、政権をとればやはり前政権と同じことが発生してくるし、大臣になっても不勉強なのがついて、前政権のエキスパートにかかわれる始末である。もともと自民党にうけいれられなかった連中が多いから、いずれ同じ問題が発生してくるだろう。やはり野に置けレンゲ草てか。

それはともかく、出費を抑えようと八ッ場ダム建設凍結が「マニフェスト」にあるから、とまず大騒ぎ。（マニフェストとはなんだ！

どうして公約でいけないのか？ 英語でゆうたら賢そうにみえるからか？）国家の財政と家計とはことなる。収入が減れば、家計なら緊縮財政で出費をおさえるのが当然であるが、国家財政は違う。

無駄遣いは当然省くべきだが、必要なものは借金をしても作らなければならない。なにをもって無駄と判断するのか、国家百年の大計を理念としてもっているかどうか。目前の数億、数百億にまどわされて肝腎のことができないようにしてしまったら、何の意味もない。・・・ここに**事業仕分け**が登場する。

でてきたのが、枝野さん（この人はアンチ小沢だからまだいいが）ともう一人がでてきた。タレントあがりというか**タレント崩れ**というか、国家百年の理念も何ももたないのがでてきて、これがまた頭の悪いおねえちゃん、世界一を目指しているスーパーコンピューターについて「一番じゃないとだめなんですか？ ・・・2番じゃいけないんですか？」・・・あほかおまえは。・・・これに対して藤原正彦さんがいう、「数学の世界でも、一番最初に発見・証明した人のみが賞賛に値する。2番目以下はゴミみたいなもの。」（勝手に要旨のみ書かせてもらった。）日本は土地も資源もないのだから、人材育成で国を維持しなければならない。つまり科学技術立国を目指

さなければならない、そのため**教育**に重点を置かねばならない、ということが**この程度の議員**では理解できないのである。その他にも年配の婦人から「自分の言いたいことだけ並べ立ててこちらの意見を聞かないのは、不愉快です！」となかばバカにされている。つまり目先のことしか見えないから、10年先100年先をみようとしない。(というより見えないのだが。)「ただちに成果をあげることができるようなことにしか興味を示さない。」・・となると素粒子物理学など役に立たないものの代表みたいなもの。

この日本をどうするか、どうしたいのかを語り、それを**実現させていくのが政治家の仕事**である。国家を背負うというのはそういうことで、何の理念もなく、私利私欲に走る連中ばかりが増えてしまって・・・・・だからこそその政権交代だったのではないか。

仕分けが必要なのは、まずは（政治をする資質があるかどうか問われている）おまえじゃないか！・・・・・いない・・

2010.01.25.